



H28年度人権・同和教育だより *3学期編

平成29年3月24日

今学期の人権・同和教育研究授業は3月15日（水）に、1年生は外部講師さんをお招きし、A1とG1で「手話講座」、S1とE1で「視覚障がいについて学ぶ体験講座」を、また2年生は、各クラスの担任や副担が部落差別の歴史から「水平社宣言と教科書無償化」について研究授業を実施しました。

また3年生は、2月16日（木）に三浦成人さんに人権・同和教育講演会「生きるということ」についてお話ししていただきました。今回は生徒だけでなく、教職員の感想もお伝えします。

<1年生>

「手話講座」では、手話講師の塩田さんと手話通訳者の金井さん、藤井さんにより、聴覚障がい者とのコミュニケーション手段が多彩にあることや伝え方の注意点、簡単な手話について、クイズ形式で楽しく教えていただきました。また、安部さんの「視覚障がいについて学ぶ体験講座」では、背中合わせで相手に図形を描かせたり、アイマスク体験をとおして、視覚障がい者を誘導する方法を教えてくださいました。両者とも、「相手に分かるように伝えること、そのためには相手を思いやる気持ち」がその根底にあるように思えました。

- ・今回の講座を受け、人を信頼する大切さを知ることができた。たった一人では限界があるので、人と協力して生活する大切さを学んだ。障がいに関係なく人と協力し合う事はとても大事なことになるので、日々の友達関係を大切にしていきたい。
- ・何にも見えないととても怖いし、これで人の多い町中を歩くとなるととても怖いと思うので、周りの助けは必要だ。自分がそういう人を見たら助けられるようになりたい。となりの人の説明を聞いて図形を書くのは、相手に上手く伝えられず、改めて、相手に正確に情報を伝える難しさを感じた。目が見えにくいのは生活していく中でとても大変なことが分かった。
- ・はじめに講師の方が入ってこられた時、どなたが耳が聞こえないのか分からなかった。ということは、すぐそこにも耳が不自由な方がいると考えられるので、手話は必要不可欠なものだと思った。一度に覚えることは難しいので、挨拶くらいから学べば耳の聞こえない人と、少しのコミュニケーションくらいならできると思う。
- ・どんな人に対しても思いやりをもって接することが必要だということと、自分が常に相手のことを考えて行動することで、幸せに思う人がいることに、改めて気づくことができた。

<2年生>

- ・差別という大きな問題は一人では抱えきれないものだと思うので、べっぴんの会のように同じ境遇に立っている人たちが集まり悩みを聞く、言うことにより気持ちの面で強くなれるし、楽になれるんだと思った。
- ・べっぴんの会のように、いろんな思いを持った人たちが集まって、日々の悩みや「それは違うんじゃない？」と思うことや、ストレスを発散できる場所があつていいと思った。いろんな人の意見を聞くことで、その後自らの行動に移せて、意識を変えることができるということは人間の成長としても良い。
- ・人と人との「つながり」が、差別をなくす大きなキーになっていくのではないかと思った。一人ではできることは限られているので、みんなで取り組むことが差別をなくすことに直接つながっていくのではないか。
- ・部落差別を受けている親の子どもへの願いを知ることができた。差別を受けている人たちの話し合いでは、いろいろな意見があつて、部落差別についてより深く考えることができた。
- ・べっぴんの会など、島根県での取り組みについては初めて知った。今では人権学習も進んでいるので、部落差別はなくなったと思っていたが、過去に差別を受けてきた親族をもつ人々には、終わりのない出来事なのだと気づくことができた。外から見える情報ではなく、相手の中身を知ることが大切だと思う。

< 3年生 >

- ・今まで差別については「やってはいけないこと」だけをただ学んできたが、差別は「いけないこと」であり、それに「堂々と立ち向かわないといけない」ことが印象に残った。
- ・理性では差別はいけないことだ、止めさせなければいけないと分かっているけど、心の奥では自分は関係ないという気持ちもあった。この講演で、「差別している人には、言わなければ分からない」と知った。
- ・今までたくさんの人権同和教育を受けてきたが、卒業前の社会に出る直前で18年間を積み重ねている分、一番心に残る授業になった。思い出することができるくらい真剣に聞くことができた。
- ・今日の講演を聞いて、差別に対する気持ちが変わった。今は「部落差別」というものは無くなっていると思っていたけど、まだ残っていて、これから自分がどのように生活をしてどのように生きていけばよいかということを知ることが出来た。これからは今日の講演のことを心に残して生活をしていきたい。
- ・私は今日初めて部落差別を受けた方に会った。想像していた以上にずっと辛く、苦しい生活をされていたことがよく分かった。実際にそのような差別をする人がいるということが信じられないくらい、ひどいことだと思った。差別はだめだと分かっている人はたくさんいるのに、それでも差別がなくなるには、私みたいに何も知らない人がたくさんいるからだと思う。私は何も知らなくて差別をしない人よりも、いろいろなことを知っていて差別をしない人になりたい。

< 教職員 >

* 1年体験講座

- ・実体験をお話いただき、補助をする人の「立ち位置」や「声掛け」など、具体的な方法が分かった。聴覚障がい者の受け取り方がどんなものか、想像力を働かせないといけないと感じた。
- ・図形を口頭で伝え絵に描かせたり、誘導する活動では、生徒が楽しそうに動いていた。視覚障がい者に対して見えないものを伝える難しさや、アイマスクで視覚障がい者の不安感を体験することができていた。

* 2年差別の歴史

- ・内容が盛りだくさんで1時間に収まらず、最後の重要な部分を参観することができなかったのが残念。追加資料の宿題では、家族とどんな会話をしたのだろうかに関心を持った。
- ・島根県内に住む方の講演記録を使っただけの話合いがとても良いと感じた。

* 3年講演会

- ・当事者こそその言葉の重みが伝わり、社会へ羽ばたく3年生へ、これから出会う困難にも一番忘れてはいけない話しをされたことが、本当に良かった。三浦さんの深い愛に力づけられた。

